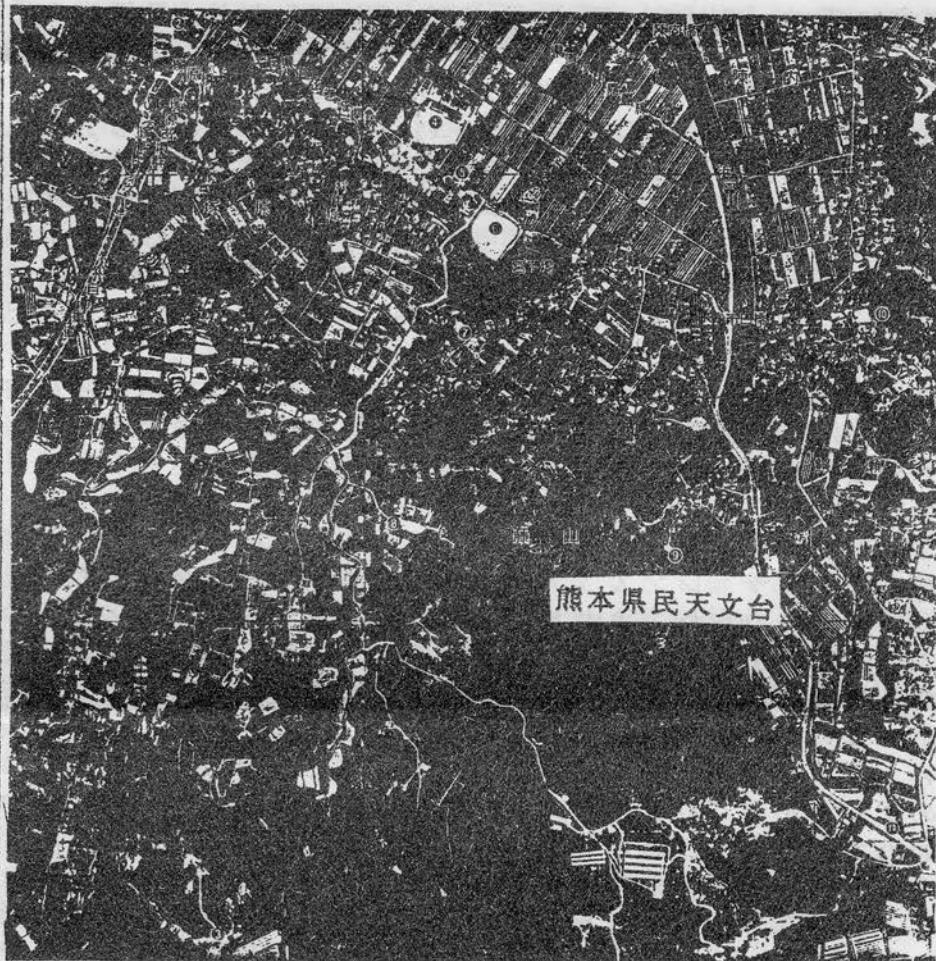


星屑

No. 179
JANUARY 1990



⑨は天文台です。

熊本県民天文台

阿蘇の恐怖

中尾 富作

星屑10月号(176号)表紙の写真を見てください。奇麗な写真ですね。こんな写真を自分も撮ってみたいと思いませんか? そう私もそう思ったのです。あの時「ほら いへだろう」と松崎氏がパラパラッと写真を自慢げに見せびらかしたのです。ちょうど阿蘇が噴火しているときでした。その時のことを松崎氏は、こんなふうに話してくれました。
「いや~~。奇麗だった。いっぱい人が来とつてから、み~へんな火口の周りに集まつてから、ぼ——っとながめとるんよ。暴警族の兄ちゃん姉ちゃんたちも来とつてから、ぼ——っとながめとつたんよ。カメラマンの人も来とつてから、写真撮つとつたんよ。火口のところもぼ——つとあか~くひかつてたんよ。や~~い、うらやましいだろ。あんたも撮つてみるたい。」と言うお話をしました。その話をきいて私も「うー撮りたい」と思わず、唸つてしまつました。それを聴いていた新村氏(今月の星屑編集委員)「いや~···中尾君。やっぱ撮るしかなかよ。これに月と木星と昇るオリオン これに阿蘇の噴煙がここらへんに···とくれば···撮つてみれば。おもしろいかも···。」

今思えばこの言葉が、悪魔の囁きにも思えます。

そして私は、なへんとおだてられて生けにえにされているとも知らずに噴火し続ける阿蘇に私と友人の二人で、松崎氏撮影の日から、ちょうど1ヶ月後の11月15日(後で判つた事ですが、阿蘇は翌日十何回目かの爆発があつたのです)登つてしまつたのでした。

この日私は夕方家に帰るなり、「ちょっと写真を撮つてくっけん」と言ってカメラ、レンズ、フィルム、をカメラバックに詰め、三脚片手に出掛けたのでした。途中友人Aをのせて。アイルトン・○□の如く、風のようにチェッカー···じゃなくて目的地・阿蘇を目指して走りました。ロープウェイ乗り場までとにかく登つてきましたが、オヤ~~人がいない。視界がわるくてモワーッとしたガスがある。鼻をつく嫌な臭い。こらまるで死界だな···。冗談はさて置き私と友人Aは、登山道のゲートをくぐり、一路火口を目指して歩いたのでした。しかし、歩き始めて間もなく、思いもよらぬものに行く手を阻まれました。なんと、空から砂粒が降つてくるのです。パラッパラッと降つたかと思えば、いきなりバ——ッと降つてくるのです。頭に顔に砂が当る当る(痛かったです)三脚に当る度にカンカンと音が鳴る鳴る。しかも、安全帽などはありません。しかしこれだけではありません。鼻を突く硫黄臭がするのです。これに加えて強風が···。ちなみにこの日現在で一番の寒さでした。(凍つてしまつた)

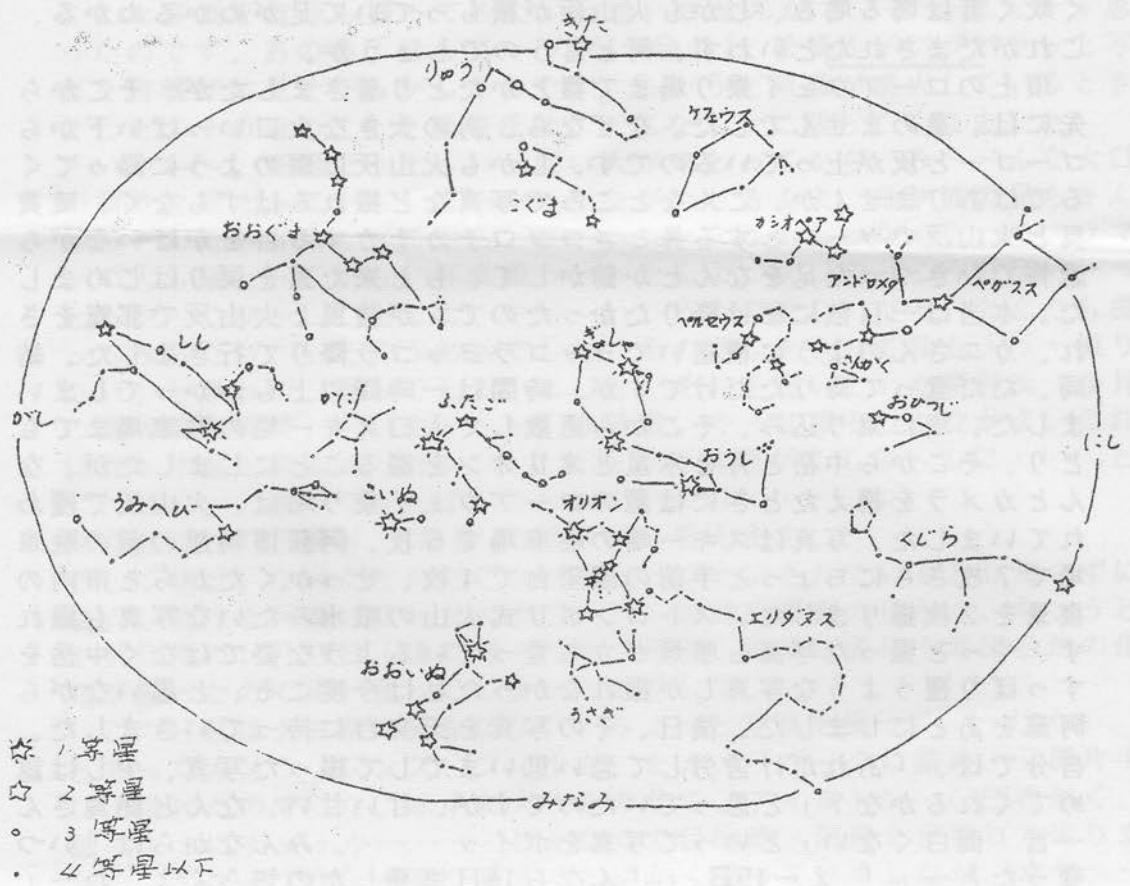
風が吹く度に目をつぶり、強風が来たときは足をふんばり、まるでカニさんのようにヨッコラヨッコラ登っていました。登っていく途中で気付いたことですが、ゴー——ツと音が続いて鳴りやみません。最初は「風の音ばい」、「風ん強かねー」と二人で笑いながら登って行ったのですが、途中からそれが風の音ではなく火口から吹き出る噴煙の音だとわかったときはさすがに足がすくみ、「こわ」というのとだまされたというのと半分半分に思いました。話が違うのです。砂は降る降る風は吹く吹く音は鳴る鳴る、しかも火山灰が積もっていて足がぬかるぬかる、これがだまされたといわず、何と言うのでしょうか。

頂上のロープウェイ乗り場まで難とかたどり着きましたが、そこから先には、進めませんでした。なぜなら、あの大きな火口いっぱい下からゴーゴーと灰が上っているのです。しかも火山灰は雨のように降ってくるではありませんか。こんなところで写真など撮れるはずもなく、硫黄臭と火山灰でツーンとする鼻とゴロゴロチカチカする目をかばいながら恐怖でひきつった足をなんとか動かして、もと来た道を戻りはじめました。本当は一目散に駆け降りたかったのですが強風と火山灰で邪魔をされ、カニさんのように横這いでヨッコラヨッコラ降りて行きました。結局、ただ登って降りただけですが、時間は一時間以上もかかってしまいました。車に乗り込み、そこから退散して人口スキー場の駐車場までもどり、そこから中岳と月と木星とオリオンを撮ることにしましたが、なんとカメラを構えたときには麓のロープウェイ乗り場は、火山灰で覆われていました。写真はスキー場の駐車場で6枚、阿蘇博物館の前の駐車場で7枚さらにちょっと手前の展望台で4枚、せっかくだからと市内の夜景を2枚撮りました。ストロンボリ式火山の噴水みたいな写真も撮れず、やっと撮った写真も噴煙が立ち登っているような姿ではなく中岳をすっぽり覆うような写真しか撮れなかつた私は今度こそ、と思いながら阿蘇をあとにしました。後日、その写真を天文台に持っていました。自分では、「あれだけ苦労して恐い思いまでして撮った写真、少しは認めてくれるかな?」と思っていたのですが、甘い甘い。なんと艶島さん一言「面白くない」といって写真をポイッ……。みんなからは「いつ登ったとー」「えー15日」「んなら16日爆発したの知らんよ、ねー」「馬鹿ばい」「無知と言うのもここまでくると……」と言われたのでした。新村さんは夜景の写真しか誉めてくれませんでした。そして、「なんで写真なんか撮りにいったとー」というのです。私は「(前ページを読んでください)」と言うと「俺そんなこと言ったっけ」私は絶句してしまいました。その後、艶島さん「いやー、しかし立ったままミイラにならなくてよかったですねー。阿蘇の噴火は恐くてね、溶岩がドロドロッジやなくて高温のガスが一気に降りてくるんよ、だから知つとる人は絶対近付かんもんねー」「ガスに蒸されて死んどった・何てわかつたらみんなの笑い物だったよ」と、この話でワーッと盛り上がったのは言うまでもありません。これで私の失敗談を終わりますが、自然をあくみると恐ろしいめに合いますね、二度と阿蘇には登りたくありません

《EIKOの空散歩》

2月上旬 ナツナツ午後9時頃

2月下旬 ナツナツ午後8時頃

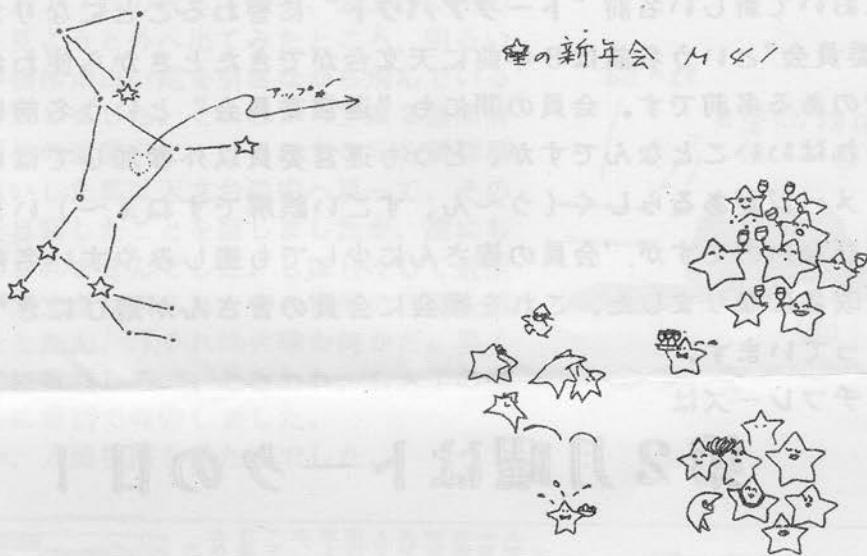


おしらせ

2月10日(土) 17時半頃(9日未明、夜中過ぎ)から
月食があります。ケニキな方なら暗れている所では
どこででも見られます。頑張って見て下さい。明るい満月が
どんどん赤黒くなつて行く不思議な皆既月食です。

次回この次は 23年になります。

おおいぬ座



南の空を見るとオリオンの下に全天一明るい星シリウスが見えます。シリウスが見つかったら手を真直ぐ伸ばして指2本ちょっと分地平線の方を見て下さい。散開星団M41があります。望遠鏡で覗いてみると、視野の中にパラパラと星が見えます。

月光がある時は「塩をこぼしたみたい」ですが、月明りのない時に見ると、「赤や青や色々な星がいっぱいね。」と中々人気がありますよ。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ 月曜星斬 ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

運営委員会”の名前を替えようという話が挙がっていましたが、睦月の運営委員会において新しい名前“トークアバウト”に替わることになりました。

“運営委員会”という名前は8年前に天文台ができたときから使われておりとても愛着のある名前です。会員の間にも“運営委員会”という名前は定着しており、それはいいことなんですが、どうも運営委員以外参加してはいけないといったイメージがあるらしく（うへん、すごい誤解ですねえ～）いまさら替えるのも憚びないのですが、「会員の皆さんに少しでも親しみやすい名前に」ということで改名になりました。これを機会に会員の皆さんのが遊びにきてくださいとおもっています。

キヤッチフレーズは

第2月曜はトークの日！ [K'ahi]

大掃除をしてフィルムをもらおう！

2月12日（祝）14時から天文台の泥棒対策大掃除を行ないますが、この日は菊池の工藤さんからいただいたフィルム各種の抽選会を行ないます。

工藤さんのフィルムで写真を撮れば入選まちがいなし!? みんなでフィルムをもらって雑誌に送ろう!!

なお、この日掃除のあとはトークの日、記念すべき第一回。司会は中島ひげさんです。どんな話題がとびだすか楽しみですね。

新年会

安達智子

新年会が1月3日山本屋で行われた。

時間どおりに会場に行ったところ来ていたのはたったの5人、幹事もまだで15人分も予約しているのにいったいどうなることかと心配になった。おまけにあいさつもそこそこに聞かされたのがまた天文台に泥棒が入ったという話、新年早々いやなこと と言いながら10人程集まったところで始めた。

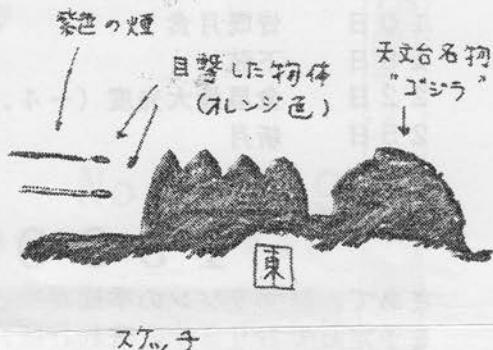
そこへ神戸にいるはずの堀田さんをはじめお久しぶりの松原さん夫妻、土山さんとどんどんやってきて最終的には約20名、座る場所もないくらいで9時過ぎ盛会のうちにおひらきとなった。

未確認天体の目撃

M. MIKAMI

12月17日の夜21時頃、天文台で空の状況を見ようと外へ出てみたところ、明るい2つの物体が白い尾を引きながら飛んでいるのを目撃しました。その日から丁度2週間前の土曜日の運営中に、NGC 205を新彗星と勘違いした私は天文台の中へ戻って、その物体を目撃したことを話しましたが、誰にも相手にされませんでした。しばらくして近所の方が天文台に来られ、その物体の目撃を話されたとたん、「それは火球か何かだ。早くLATに電話しろ。」と言われ、LATの橋本さんに電話で報告しました。

なにか、人間模様を見た夜でした。



スケッチ



12月19日
熊日夕刊

2月10日の皆既月食

半影食はじまり	01 h 19 m
部分食はじまり	02 h 28 m
皆既食はじまり	03 h 49 m
皆既食おわり	04 h 32 m
部分食おわり	05 h 53 m

17日夜の「火の玉、
和歌山の南で消滅
アマチュア天文家が突き止める

橋本さんは、火の玉の正体についての火の玉の数が多い。
測定時間も長いので、石

など流星の場合も最低でも秒
速十五点ある。ところが
「打ち上げられた人工衛星の
ロケットの最終段の破片では
は」と推測している。この場
合、ソ連の人工衛星の可能性
が高いものの、軌道傾斜角度
からの米国などの人工衛星
の可能性も捨て切れない、と
話している。

を約5分で日本海方面か
ら、四国上空を通過し和
歌山市付近で消滅、北西から
南西にかけての経路となっ
ている。

2月の星空

3日 上弦
10日 皆既月食
18日 下弦
22日 金星最大光度 (-4.6等)
25日 新月

1990 Mマラソン

さて、Mマラソンの季節がやってきました。今年は3月24日(土)ごろを予定しております。晴れれば、人間スカイセンサー対マイコンスカイセンサーの世纪の対決や、新発見された三上彗星(別名M110とも言うそうです)の観望、晴れない時は、アルコール鑑賞会になるかもしれません。

参加希望の人は、お早めにお知らせ下さい。

編集後記

・1月号の発行が遅れたのは、すべて、わたくしの責任であります。本当にもうしわけございません。すいません。ごめんなさい。ゆるしてください。

ところで、中尾さんの文中で悪魔と言われたこの私ですが、本人である私にはまったく記憶のことです。やはり、火山と私には、あの、三原山大噴火観測決死隊として、途中大阪で車が大噴火して以来、切っても切れない縁があるようですね。

新村史明

・Mマラソンの主催者のG P Xです。以前天文台での記録は94個ですので、今年は、それを上まわる100個が目標です。話しかかりますが、阿蘇で火山灰の中に埋まっているところを発見された中尾さんの写真の腕前が上がっているのをお気付きでしょうか? 中尾さん。みんなにけなされても、けなされても、けなされても、写真を撮って下さい。みんなの腕を追越すのは、時間の問題です。

G P X

熊本県民天文台機関誌「星屑」 1990年1月号 通巻 179号

発行所 熊本県民天文台 〒861-42 熊本県不益城郡城南町豊山

TEL 0964-28-6060

熊本県民天文台事務局 〒860 熊本市吉京町3番2号 熊本市博物館内

TEL 096-324-3500

振替口座 熊本8-24463

熊本県民天文台事務局

編集担当 G. P. X.